アイノコトノハ お試し版

Aino-Kotonoha

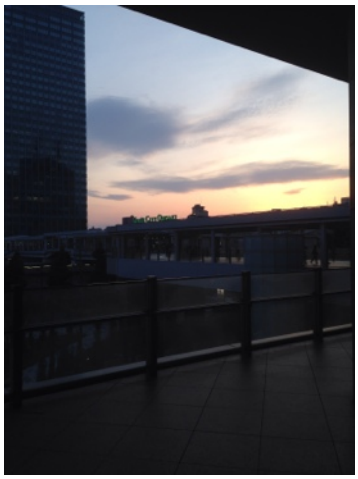
PHOTO&POEM MASAYUKI SAKURAI

身近にある景色が

どこかで見たことがある光景に

そして…。

いつか感じたことのある感情に



The View From Train Window

目次

目次 2
アイノコトノハ 3
アイノコトノハのいろいろ 32
アイノコトノハを紙本にします 33
作者紹介とあとがき 34

「アイノコトノハ」

僕は

ずっとここで

アイノコトノハを

唱え続ける

「流れる」

流れるように

僕は

ここまで来た

流れるように

僕は

君と出会った

「愛するということ」

無理とか

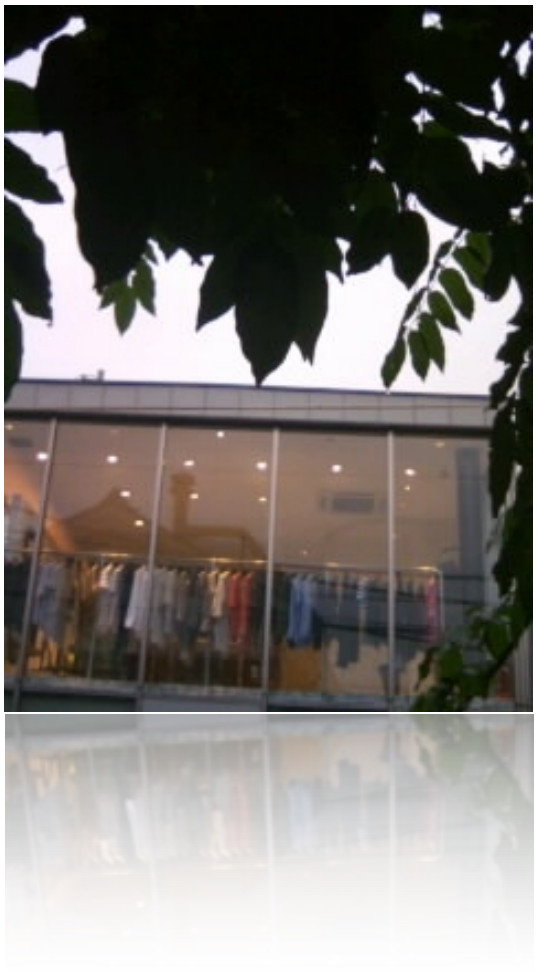
無意味とか

そんなことは

関係ない

ただ僕は君を

愛し続ける



「あきらめない恋」

あきらめる恋も

重要だけど

あきらめない恋も

重要だよ

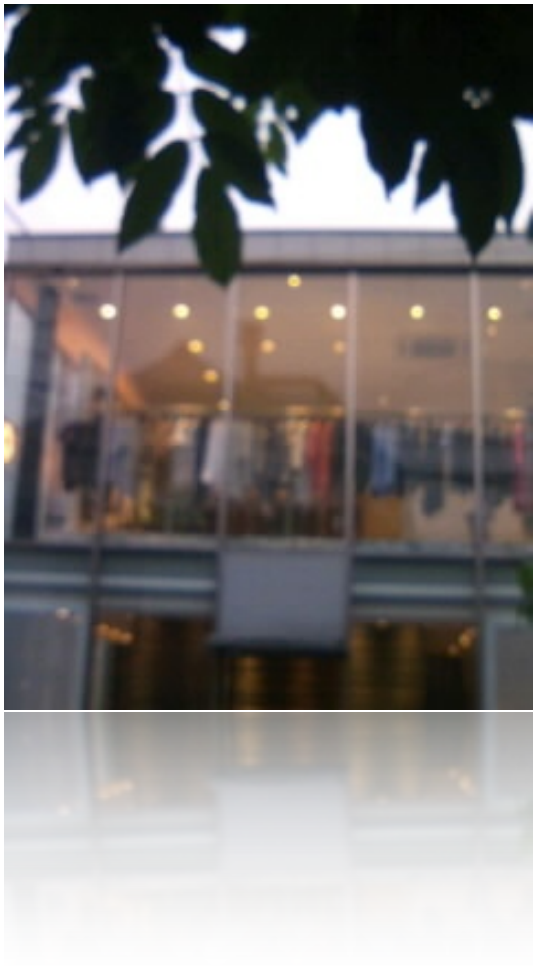
「あきらめる恋」

あきらめない恋も

重要だけど

あきらめる恋も

重要だよ



「いらない」

いらない

その言葉が

一番痛い

あなたの

邪魔はしないから

側にいさせて

「条件」

条件なんて

何もないって言うけど

条件がないから

見つからないんだよね

「ざわめき」

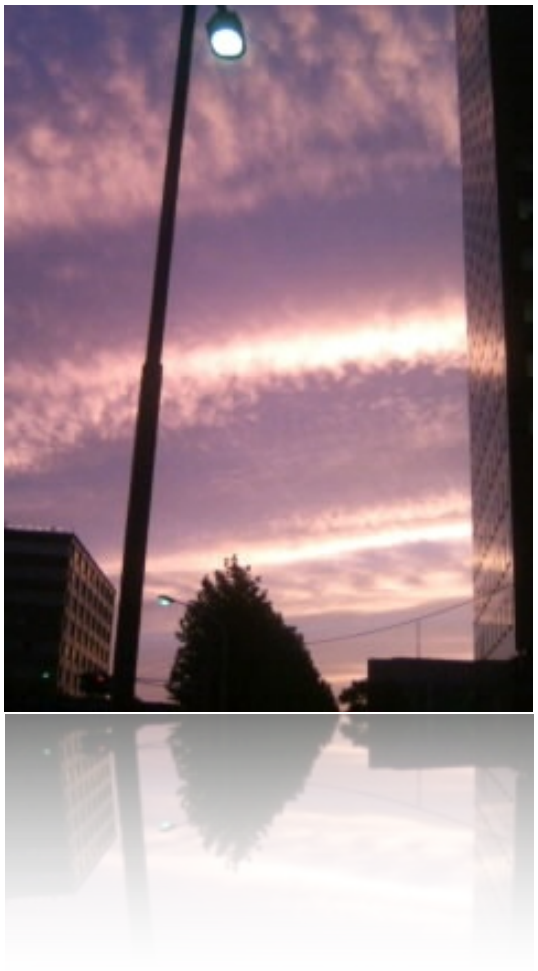
あなたに

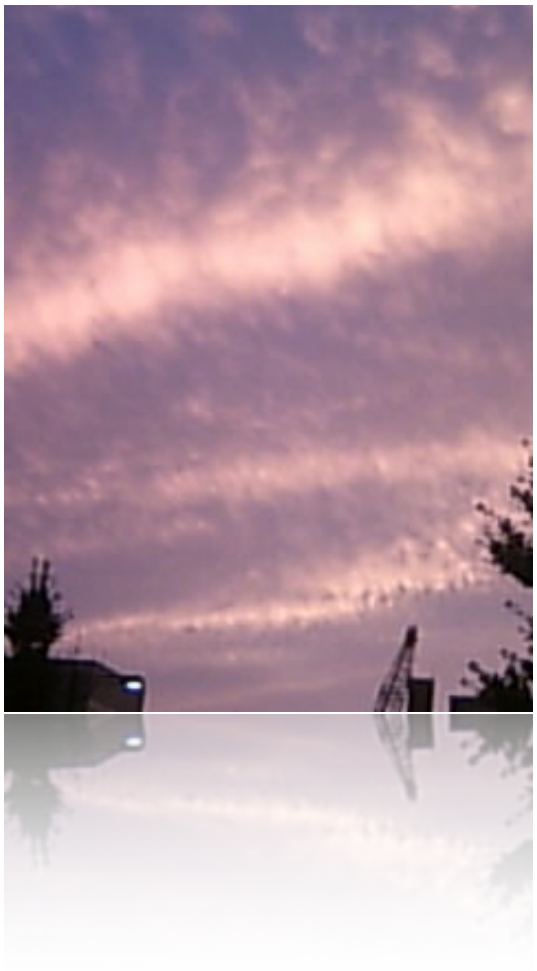
会った途端

私の心は

ざわざわと

騒ぎだす





嘘だと

わかっていても

止められない

あなたに

会うたびに

どんどん

好きになってしまう

嘘だと

わかっていても

私は

あなたのことが

好きだった

そんなあなたでも

大好きだった

「逸らす」

あなたの

熱い視線に

耐えられず

視線を逸らした

「遙か遠く」

遙か遠く

遙か遠くへ

行ってしまう

そんな気がする

「ためらい」

とまどいとは

違うなにか

もどかしくて

狂おしくて

いとおしい

「このまま１」

このままでいたい

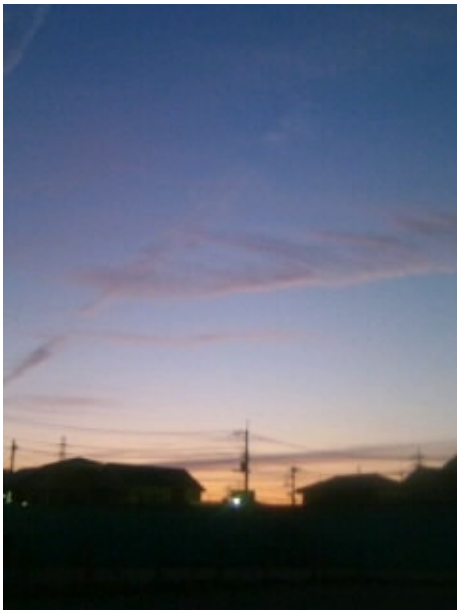
という思いとは

裏腹に

空の色は

刻一刻と

変わっていく



「このまま２」

このままでいたい

という思いとは

裏腹に

君は

雲のように

飛んでいったまま

帰らなかった

「止まらない」

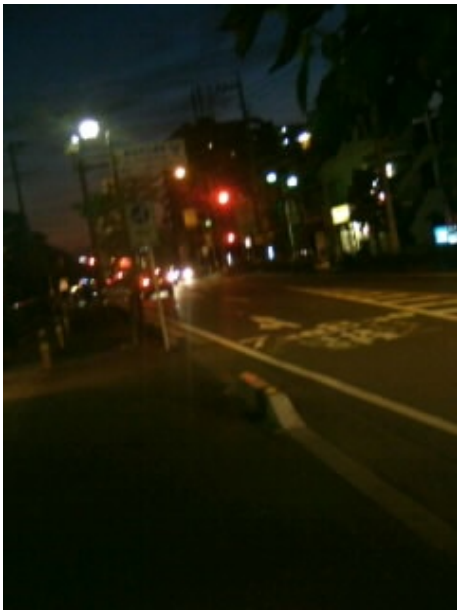
止まらない

悲しさほどに

止まらない

テールランプが

涙でにじむ



「一瞬」

一瞬で

すべてが

なくなる

「忘れた記憶」

忘れたことを

思い出す

それは

とても大切で

愛情にあふれた

すてきなもの

手繰るように

ゆっくり

ゆっくり

忘れた記憶を

思い出してみて

不安は

闇とともに

広がる

じわじわと

僕の首を

真綿で締める

この不安を

言葉にするのが

怖いんだ

言葉にしたら

すべてが

現実のものに

なってしまいそうで

不安なんだ

ただ泣きたい

訳もなく

涙がこぼれる

ただ会いたい

訳もなく

君を

抱きしめたい

君の声を

聞くと

僕の心は

揺らぐ

「孤高」

孤高という

響きが似合う

美しき

孤高の君

「鮮やかな光景」

過去の

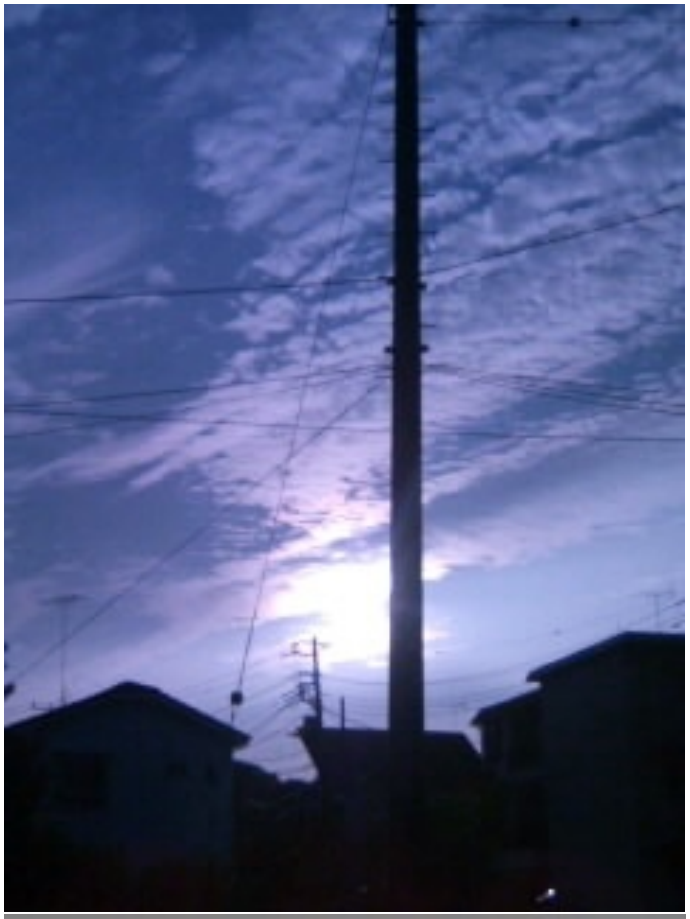
思い出は

色鮮やかな

美しい

光景として

映し出される



「遠くへ」

僕の思いは

遠くへ

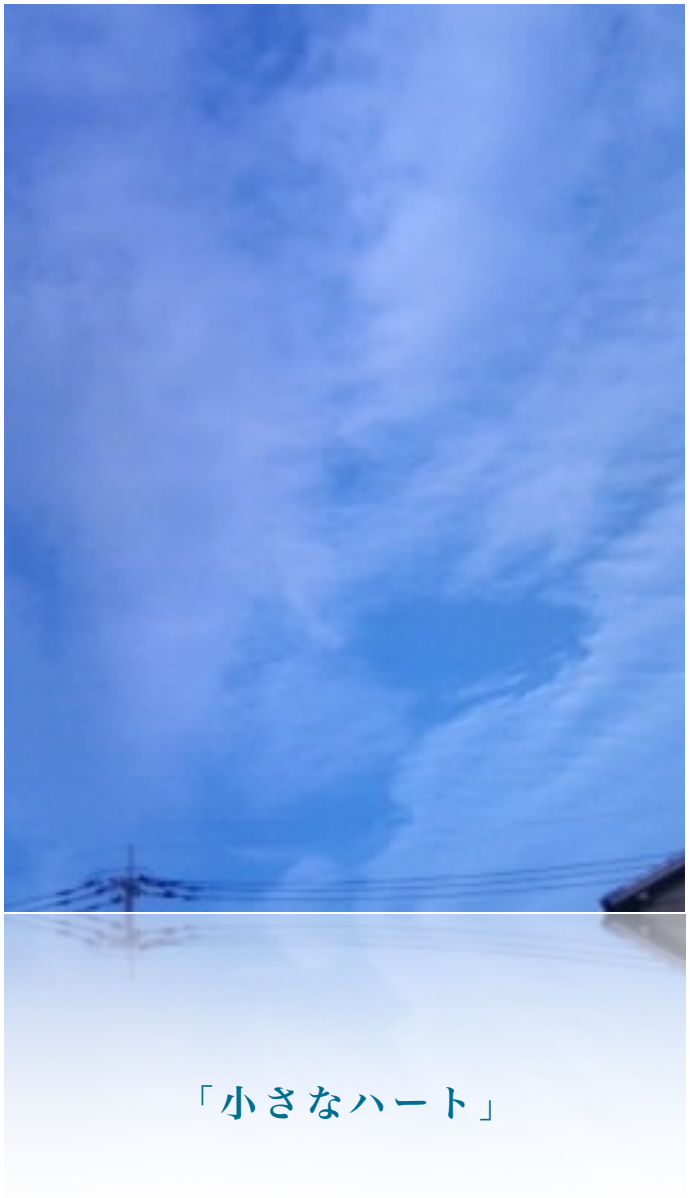
君の目に

触れない

遠くへ

飛ばして

しまいたい



「小さなハート」

目に見えないくらい

小さなハートだけど

僕はいつでも

君を空から見ている

「過去と今」

あそこに

君と二人で

座っていた

ふとかすむ想い

今隣りには

別の人がいる

「流れ出る」

この川と

同じように

記憶も

思い出も

流れ出ていく

「遠くへ」

遠くへ

あなたが

果てなく

遠くへ

僕の手から

離れて

遠くへ

「そっぽ」

そっぽを

向かれるだけで

悲しい

あなたの

視線の先には

私は

いないのだから

「どこまでも」

相手に

してもらえない

どこまでも

あなたとの

関係は

平行線なのだ

ゲートは

開かれた

僕らは

次の場所へと

向かう

たとえ

どんなに

君が

僕のことを

好きだった

としても

あぁ

飛んでしまいたい

ここから

飛んで

あなたのいない

別の場所へ

飛んでしまいたい

せつないを

通り越して

絶望的に

悲しい

いや

せつないとも

悲しいとも

違うもの

かもしれない

「永遠の」

突き抜ける

悲しさは

永遠の

架け橋

せつなさは

黄昏の空を

飛び越える

「嘘でもいい」

嘘でも

いいんだと思う

ただ

イエスと

言うことだけが

僕に

課せられた

使命なのだから

どうしようも

ないくらい

君のことが

好きなんだ

もう

どうしようも

ないくらい

せつなさも

苦しさも

愛しさも

すべて

頭の片隅に

記憶として

残っている

流され

そうになる

会わない

時間が

長ければ

長いほど

流され

そうになる

いつか見た

あの光景

もう

思い出すことは

ないと

思っていた

「あの青」

あの青に

溶けてしまいたい

溶けてしまえば

僕の心も

あの青のように

透き通るはずだ

青に始まり

青に終わる

憧れであり

焦燥であり

光でもある

その青に

僕は

なりたかった

2009.6.29-10.28
アイノコトノハのいろいろ

アイノコトノハはもともと…

元来、飽きっぽい性格でものごとを継続してやるということができなかったんです。前作、『YU-NAGI』は旅をテーマにした写真詩ブログでしたが、『アイノコトノハ』はガラリと趣きを変えます。

アイノコトノハのテーマは日常の風景と愛の言葉です。だから、写真もかなり雑なものが実は多いんです。なにしろ、ここにあるすべての写真は携帯電話、しかもガラケーで撮った写真なのですから…。

この試みをしたいと思ったのは、日常の何気ない景色にこそ感じることがあると思ったからなんですよね。

だからこそ、「今」を表現するという意味で、当たり前の日常を写真にすることで何かが表現できると思ったのです。

ブログだけで完結していたと思っていたのですが、いつしか形にしたいという想いに変わってきました。写真詩集にすることで新たに手に触れてくださる人がいればよいなと思っています。

あなたの胸にアイノコトノハが届きますように…。

さくらいまさゆき

by Miracle

アイノコトノハを紙本にします

文庫サイズ.A6サイズ
全ページ.フルカラー
総ページ数.96P
価格.720円

新しく生まれ変わる…

電子書籍をつくる作業も、意外に地道な作業で大変ではあるんです。でも、本が好きな人なら誰しも紙でつくられた本に触れるのが好きですよね。

そんな紙本をこの『アイノコトノハ』でつくってみました。ベースはここにある43編の写真詩ですが、書籍もまったく同じだと面白くないですよね。大きく手を入れて、新しい作品に生まれ変えてみました。

まず、写真はすべて新しいものに差し替えています。一眼レフカメラで撮った写真を使用し、さらに未発表の詩を8編、ラブレターを1通追加しています。

きっと、電子書籍とはちがう感覚で読めるし楽しめると思います。

紙本の購入はこちらからどうぞ

＊紙本の写真をもう少し見てみる

＊アイノコトノハ申し込みフォーム

作者紹介とあとがき

詩人・銀色夏生さんに憧れて、中学生から詩を書き始める。

2004年から写真詩ブログ『YU-NAGI』、2009年から『アイノコトノハ』を始める。

自身で撮った写真と詩を組み合わせた写真詩をつくる中で、見てもらう人に何かを感じてもらえる作品づくりを心がけている。

現在、写真詩サイト『まほろのまぼろし』にて、新しい作品を紹介しています。

あとがき

YU-NAGiを刊行してから、ずっとこのアイノコトノハも書籍の形でまとめたいと思っていました。ようやく念願叶っての刊行です。最後まで読んでくださったみなさま本当にありがとうございます。また、どこかでお会いできることを楽しみしています。

2016.4.8　さくらいまさゆき

アイノコトノハ

さくらいまさゆき 写真・詩

2016年4月16日発刊

＊アイノコトノハ

http://mahola.xsrv.jp/aino-kotonoha/

＊まほらのまぼろし

http://mahola.xsrv.jp/maboroshi/